

研究課題	「教師教育者の省察開示」と「学習者の授業内の内面省察」を組み込んだ教員養成課程授業に関する S-STEP		
氏名	大村 龍太郎	所属	総合教育科学系教育学講座
		職名	講師
APRIN e-ラーニングプログラムの受講 <input checked="" type="checkbox"/> ←受講済の場合はチェックをすること			
<p>【研究成果の概要】 （文字の大きさ9ポイント・字数800字～1600字程度）</p> <p>本研究の目的は、「教えることを教える」教員養成課程の授業において、その授業内容だけでなく、教師教育者がその授業でまきに行っている教育方法そのものに対する教師教育者自身の「行為の中の省察（reflection in action）」を同時進行で学習者に開示し、「行為後の省察（reflection on action）」の開示を次回の授業に組み込むこと、さらに学習者自身が授業中に感じている感覚を省察することを一連の講座を構想・実践するとともに、それが教員志望学習者の「教えることの学び」に及ぼす影響を明らかにすることである。そのために、ジョン・ロックランが重要性を指摘する S-STEP（教師のセルフスタディ）の方法論を用いて、その仮説に基づく講座を構想・実践し、効果の検証を行った。</p> <p>コロナ禍によって対面の授業ができない状況となったため、当初の予定とは変更になったが、オンライン授業を基本として、以下のような手続きで研究を行った。</p> <p>①大学1年生を対象とした講座「教職入門」（受講者51名）において、講座の15回の内容とともに、本研究の目的に資する方法を組み入れた。具体的には以下の3点である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の内容だけでなく、「学習者としての自分自身の授業中の感覚・感情」を自覚的に捉えるとともに、それを毎回の振り返りで表現すること ・教師教育者（本講座における授業者であり、本研究の当事者、以下、教師教育者とする）が授業中に開示する自分自身の葛藤や判断の根拠をもとに、考えたことを授業中や振り返りで表現すること ・授業はすべてオンライン授業で行い、カメラはオンとする。カメラが常にオンであることによる教師や学習者の感覚そのものも省察の対象とすること <p>②S-STEPの方法論としての一つであるクリティカル・フレンド（以下、CF）を教師教育研究者に依頼し、CFが毎回の授業を参観し、授業後、教師教育者と意見交流を行った。</p> <p>③教師教育者は、学習者の授業中の様子や振り返りの記述、及びCFとの意見交流をもとに自身の内面や授業方法を省察し、調整しながら毎回の授業を行った。</p> <p>④すべての授業及びCFとの意見交流を録音録画し、その動画及び学生の振り返りの記述をデータとして教師教育者自身も省察をしながら、授業における仮説の有効性や新たな仮説を検討した。</p> <p>⑤①～④のような授業や学生の変容をどうとらえるかを小学校現場教師に意見聴取し、教師の実践力にどのように関連するのかを検討した。</p> <p>研究の結果、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職課程の入門としての位置づけである学生にとって、授業における学習者の内面をメタ認知することが教師ではなくその授業を受ける学習者側の視点を大事にすることの価値を学ぶことに大きく影響すること ・教師教育者のリアルタイムでの省察開示や授業後の省察開示、かつその省察を基にした授業改善の意図の開示が、「教えることの複雑性、困難性、不確実性、一回性」を学ぶことに大きく影響すること ・教師教育者自身が、そのような授業を行うことで学生からの振り返りをもとに授業を改善していくとする意識が高まり、学習者とともに授業を改善していくことができ、その姿自体から学生が学ぶという相乗効果が期待できること <p>等の可能性が示唆された。</p> <p>一方で、教師教育者のセルフスタディの方法論自体が日本ではまだ十分に確立されておらず、教師教育者自身の実践や内面を対象とするため、事例研究から汎用化・一般化への検討はまだ十分とは言えない。今後も他の授業に広げたり、セルフスタディそのものについて検討したりすることを続けていく必要がある。また、このような授業やそれにおける学生の変容について資料化し、現役教師に提示することで実際の学校現場をふまえた意見を聴取した。今後の検討材料としたい。</p>			
<p>【研究成果発表方法】</p> <p>2021年10月2・3日に行われる日本教師教育学会にて、本研究を発表する予定である。また、今後も研究を進め、1,2年以内に日本教師教育学会に本研究をふまえた論文を投稿する予定である。</p>			

※発表論文名（口頭発表を含む）、氏名、学会誌等名（投稿中・投稿予定・執筆中）を記入すること。

※本経費を用いて、報告書（冊子等）を作成した場合には、本様式とともに1部を提出すること。

なお、提出された報告書は教育実践研究推進本部を通じて附属図書館へ寄贈する。